歯科衛生学科［3年制／男女］

入学者の受け入れ方針 アドミッションポリシー

歯科衛生学科では、卒業認定・専門士授与の方針（DP）および教育課程編成・実施の方針（CP）に定める教育を受けるために必要な、知識・能力や目的意識・意欲を備えた学生を各種入学試験を通じて受け入れる

1. 穴吹学園の教育理念を理解し、主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける意欲がある人
2. 歯科衛生士に必要な知識や技術を修得するうえで、高等学校の教育内容を学修している人
3. 人に関心を持ち、自らが気づく感性を磨き、支援や問題解決に向けて誠実に対象者と向き合う対応力や人間性を有するための努力ができる人
4. 歯科衛生士として歯科疾患の予防と口腔衛生の向上を図ることを目的に、医療・福祉・地域の場で幅広く社会に貢献しようとする意欲のある人

教育課程編成・実施の方針 カリキュラムポリシー

歯科衛生学科では、DPに掲げる能力を身につけるための教育課程として、必要とされる科目を体系的に編成し、講義・演習・実習を適切に組み合わせた授業を行う

1. 生命科学について理解し、人と心理および情報処理について深く学ぶことにより、人間理解を育成し対人コミュニケーション力を高めるような実践的授業を実施する
2. 臨床歯科医学の知識を体系的に学び、予防に関わる社会の仕組みや福祉についても幅広く統合しながら授業を実施する
3. 歯科予防処置技術の基礎から応用を、技術力の高い教員の指導のもと、学内演習と相互実習で段階的に習得し、より実践的な実習を実施する
4. 人々の歯と口腔の健康を守り支援するために、問題発見と問題解決ができる総合的な力を身につけられる医療・福祉・地域の臨地実習を実施する

目指す人材像 ディプロマポリシー

歯科衛生学科では、履修規程に即して必要単位を修得し、必要な修業年限を満たしたうえで下記の能力を備えていると判断した場合に、卒業認定および専門士の称号を授与する

1. 命の大切さとホスピタリティーの心を持ち豊かな感性と人間性で人と関わることができる
2. 歯科衛生士に必要な知識と高い歯科予防処置技術を習得し、口腔衛生管理の担い手として地域社会と国際社会に貢献できる
3. 歯科衛生士として根拠に基づく専門的歯科衛生知識を統合し、わかりやすく伝え多職種と協働するための協調性を身につけている
4. 口腔だけでなく全身や対象者の心理、ライフステージや背景など広い視野で捉え考えながら柔軟に対応できる力を身につけている

目指す資格

- 歯科衛生士［国家資格］
- 救急法救命員

到達目標

1年次＜前期＞	1年次＜後期＞	2年次＜前期＞	2年次＜後期＞	3年次＜前期＞	3年次＜後期＞
歯科衛生士の３大業務「歯科予防処置」「歯科保健指導」「歯科診療の補助」の基礎とともに、解剖学や病理学など基礎分野の知識を習得する。	前期の基礎知識とともに演習を通して技術を身につけるとともに、臨床基礎医学分野の知識も習得する。さらに心理学や教育方法論など医療人としての自覚も身につける。	歯科補綴学や高齢者歯科学などの臨床歯科医学の専門知識を習得するとともに、後期からの臨床実習に備えた技術を身につける。臨床における歯科保健指導の技法を身につける。	一般歯科医院や大学病院での臨床実習を通して歯科技術を学び、専門的な能力や医療人としてのマナーやコミュニケーション能力も身につける。	臨床実習での経験を積み、多職種によるチーム医療について学び、連携できるスキルを身につける。専門的な知識、技術および態度の習得を行う。	歯科衛生士としての知識の集大成として歯科臨床分野について深く理解し、就職後、即戦力として働けるスキルを身につける。国家試験に合格できる知識を習得する。

カリキュラム

1年次＜前期＞	1年次＜後期＞	2年次＜前期＞	2年次＜後期＞	3年次＜前期＞	3年次＜後期＞
講義 解剖学	講義 生化学			講義 栄養学	
講義 組織発生学					
講義 口腔解剖学Ⅰ	演習 口腔解剖学Ⅱ				
講義 口腔病理学	講義 薬理学				
講義 口腔衛生学Ⅰ	演習 口腔衛生学Ⅱ				
	講義 衛生学・公衆衛生学				講義 衛生行政・社会福祉論
講義 歯科衛生士概論				演習 歯科衛生学の統合と実践	演習 歯科衛生学の統合と実践
			演習 口腔機能管理学	演習 専門職連携演習	
		講義 口腔外科学・麻酔学			
	演習 歯科保存学	講義 歯科矯正学			
	講義 小児歯科学	講義 歯科補綴学			
	講義 歯周治療学	講義 障害者歯科学			
		講義 高齢者歯科学			
	演習 歯周病予防法基礎演習				
講義 歯周病予防法Ⅰ		演習 歯周病予防法Ⅱ		演習 歯科予防処置実践実習	
	演習 う蝕予防法				
講義 歯科保健指導論Ⅰ	演習 歯科保健指導演習Ⅰ	演習 歯科保健指導論Ⅱ	演習 歯科保健指導演習Ⅱ	演習 歯科保健指導論Ⅲ	
演習 歯科診療補助論Ⅰ	演習 歯科材料学	演習 歯科診療補助論Ⅱ	演習 歯科診療補助演習	演習 歯科診療補助論Ⅲ	
実習 臨地実習Ⅰ		実習 臨地実習Ⅱ		実習 臨地実習Ⅳ	演習 総合歯科医学
		実習 臨地実習Ⅲ		実習 臨地実習Ⅴ	
	演習 人間関係論				
演習 人間関係論		講義 文章表現法	講義 英語コミュニケーション	講義 社会人基礎教育	
	講義 心理学				

スケジュール

	1年次	2年次	3年次
4月	入学前学習、入学式、新入生オリエンテーション、新入生歓迎行事	新入生歓迎行事	新入生歓迎行事
5月		小学校保健指導	
6月	臨床実習		
8月	穴吹祭、夏休み	穴吹祭、夏休み	穴吹祭、夏休み
9月	スポーツ大会	スポーツ大会	スポーツ大会
10月		臨床実習、戴帽式	
12月	冬休み	冬休み	臨床実習、冬休み
3月	医療系海外研修（※希望者）、春休み	春休み	歯科衛生士国家試験、卒業式

主な科目内容

科目	内容
人間関係論	患者と向き合い、不安や緊張を安心へと導くコミュニケーションの基本知識と実践力を身につける。教育理念であるホスピタリティ実現に向けた土台作りをする。
英語コミュニケーション	国際化、情報化社会に対応しうる能力として歯科英語の基礎を学び、現場で簡単な会話ができるよう英会話についても学ぶ。
解剖学	全身構造と各器官･機能を理解する。特に口腔を含む顎顔面部は独立して存在するのではなく、全身の一部であることを理解する。
生化学	歯科衛生士として必要な栄養学の基礎知識と栄養素の基本的な役割を学び、歯科保健指導ができる能力を養う。
栄養学	予防や、教育の支援を行う能力を養う観点から、1年次の生化学をもとに、疾病の予防と回復過程に関する知識を培う。
口腔解剖学Ⅰ・Ⅱ	口腔内の構造や歯、および歯周組織を解剖学的見地から学び、その知識を身につけ、形態的特徴を説明できるようになる。
口腔病理学	口腔病変の診断、治療、ならびに予防に関しての知識を身につけ、歯科衛生士として将来患者への説明などが行えるようになる。
薬理学	歯科臨床における薬物療法の基礎概念、ならびに歯科薬物作用と薬物使用の実際についてその知識を身につける。
歯科衛生士概論	歯科衛生を実施する健康支援者としての将来像をイメージし、保健医療人としての態度について理解する。
口腔衛生学Ⅰ・Ⅱ	個人･集団に対する歯科予防処置、健康の保持、増進、歯科保健指導を実施するための口腔保健に関する基礎的な知識を習得し、ヘルスサービスを提供する能力を身につける。
衛生行政・社会福祉論	人々の健康に関するセルフケア能力を高めるために必要な教育的役割を知り、各関係諸機関等との調整能力を高める態度を養う。
歯科保存学	齲蝕などによる硬組織の欠損、歯髄疾患、根尖性歯周炎など歯周組織の病変の進行を抑制し、治療および機能回復を図る治療法の知識を学ぶ。
歯周治療学	歯周疾患患者における歯科衛生士の役割と基礎的な知識を学ぶ。
歯科補綴学	歯科補綴臨床の基本的知識、治療の流れを理解し、診療補助および術前、術後の口腔ケア指導も行える知識と技術を習得する。
高齢者歯科学	高齢者の歯科医療に関わる技術と高齢者の心と身体にどう接するかを学び、口腔の健康維持増進のため高齢者の生活の場への関わり方を身につける。
歯周病予防法Ⅰ・Ⅱ	歯周病予防に関する基本的知識と予防処置技術の基礎を身につける。
歯科予防処置実践実習	歯科衛生士に必要な手技における基本操作を習得する。段階的に習得できるよう基本、総合的、実践的な実習を行う。
歯科保健指導論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	高齢社会に目を向け、高齢者、障害者を対象とした対象者別の歯科保健指導ができる能力を養う。
歯科保健指導演習Ⅰ・Ⅱ	小集団指導の実践と、各ライフステージにおける集団保健指導を行うために、グループ学習で企画力やコミュニケーション能力を身につける。
歯科診療補助論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	歯科診療補助の業務体系を法律的に理解し、チーム医療の実現、臨床における様々な状況に対応しうる判断力、倫理観を身につけるための知識を習得する。
歯科診療補助演習	歯科診療補助の業務の基礎を理解し、歯科医師と円滑なチーム医療を実現するために必要な知識と技術を演習によって身につける。
臨地実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ	歯科衛生士の役割を理解し、基礎技術から専門技術やチーム医療まで体系的に学び、コミュニケーション能力や保健指導も含めて臨床の場で知識と技術を習得する。
口腔機能管理学	口腔機能の管理と指導を行うため、専門的知識、技術および態度を習得する。
専門職連携演習	医療チームの一員としてまたは、医療の包括的な支援サービス提供の場において他職種と連携できる歯科衛生士となるために必要な知識、技術および態度を習得する。
歯科衛生学の統合と実践	歯科衛生士業務に関わる学問をさらに体系的に学べるよう、歯科衛生過程の内容をより実践的に学ぶ。
社会人基礎教育	円滑な就職活動のために社会人としての基本的マナーや、主体的に自己のキャリアデザインに取り組む姿勢を身につける。
心理学	人と関わる業務を行うために知っておいた方が良い知識として、一般的な心理学の基本的な枠組みを学び、発達心理学についても学習する。
組織発生学	人体の構造や機能とともにその成り立ちについても学び、歯科衛生士に必要な口腔の組織、発生について理解する。
衛生学・公衆衛生学	公衆衛生の基本概念を理解し、個人および集団に対する、健康の保持、増進および歯科保健指導を実施するための仕組み、口腔保健に関する基礎的な知識を習得する。
小児歯科学	心身の発育変化と生理的特徴および口腔領域の正常な発育と異常･疾患、小児歯科独特の歯冠修復法･歯内療法･咬合誘導の概要を学び、歯科衛生士の役割である小児の口腔保健管理を学ぶ。
口腔外科学・麻酔学	口腔外科学は、口腔および顎顔面に現れる先天性または後天性または後天的疾患について、その原因、病理、症状、診断、治療、予後などを学ぶ。
歯科矯正学	不正咬合（咬合異常）や咀嚼障害の原因･治療法およびその予防法についての知識と技術を身につける。
障害者歯科学	身体的、知的、あるいは精神的な障害のある人に対する理解と知識を身につけ、摂食･嚥下障害などに対するライフサポートができる。
う蝕予防法	個人および集団に対する歯科予防処置、健康の保持、増進および歯科保健指導を実施するための口腔保健に関する基礎的な知識を習得する。
歯科材料学	歯科衛生士としての職責をもって歯科臨床においてコ･デンタルスタッフとして歯科材料の知識を備え基本的な使用法を実践できるようになる。
総合歯科医学	3年次の知識の集大成として、歯科臨床分野について深く理解する。臨床実習とともにふり返ることで知識の定着を図る。